

2. 現況把握

2-1. 計画地の概要

2-1-1. 北斗市運動公園の沿革

昭和 53 年に供用開始された北斗市運動公園は、幾度の施設増設と面積の拡充を繰り返し現在に至る。供用開始時は、14.3 ha だった公園面積もフットボール場の増設と共に公園区域変更が行われ、現在の函館圏都市計画決定面積は 18.3 ha となっている。

供用開始	施設名	備 考
昭和 53 年 6 月	総合体育館	
" 12 月	自由広場 駐車場 主園路	
昭和 54 年 12 月	多目的グラウンド	
昭和 55 年 12 月	自由広場植樹帯 園路 A 園路 B	
昭和 56 年 6 月	園路 C 園路 D	
" 8 月	テニスコート	
" 9 月	野球場	
昭和 57 年 11 月	テニスコート 修景広場 園路 E	
昭和 58 年 10 月	修景広場 園路	
昭和 60 年 10 月	弓道場 園路	
昭和 61 年 8 月	修景広場	噴水
昭和 63 年 8 月	花見広場	
平成 4 年 1 月	園路	
平成 11 年 3 月	パークゴルフ場	
平成 13 年 6 月	市民プールかみんぐ	
令和元年	フットボール場 完成	

2-1-2. 社会的特性

1) 位置

運動公園は、市庁舎から戸切地川を挟んで西側に約 1.5 km、函館湾から約 1 km の距離に位置する。また公園内総合体育館は災害時避難場所に指定されている。ただし北斗市津波ハザードマップによると、海岸線から近いこともあり大津波警報が発令された場合の大津波避難目標ラインより総合体育館も含め内側に位置している。

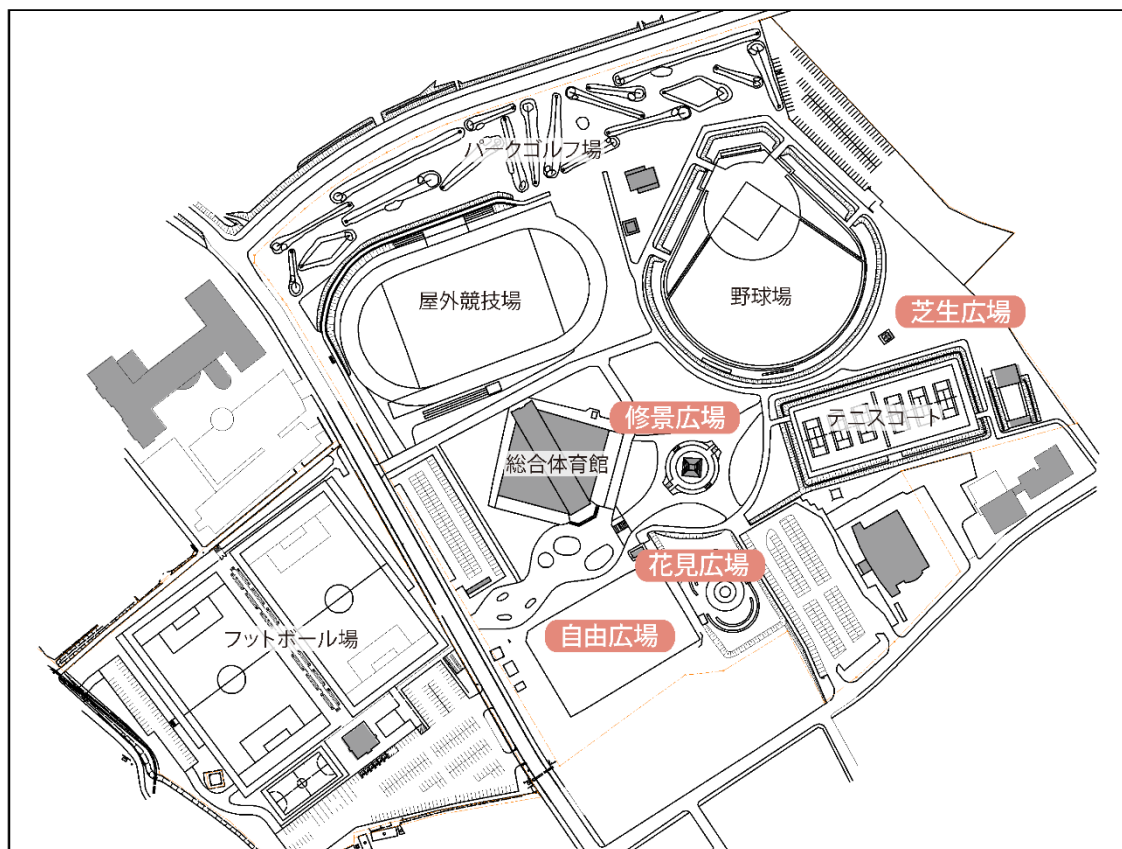
本業務では、主に北斗市運動公園内の修景広場（噴水）、自由広場、花見広場などについて再整備計画を行うものとする。

市庁舎等周辺位置関係図は下記に、公園内計画地位置図は次頁に示す。



※ 出典：北斗市都市計画情報閲覧サービス

◇ 北斗市運動公園内計画地範囲図



2) 交通

北斗市運動公園は、函館湾沿岸と平行して走る道南いさりび鉄道「JR 上磯駅」から徒歩約 10 分圏内、函館 (JR 五稜郭駅) から約 30 分圏内である。また道南いさりび鉄道と同様に函館湾沿岸と平行して「放射 5 号線」「上磯田園通」それを結ぶように「運動公園通」「清川通」の都市計画道路に囲われた位置にある。

周辺主要交通網を下記に示す。



※ 出典：北斗市都市計画情報閲覧サービス

3) 計画地用途地域

計画地の用途地域は、市街化調整区域にある。

公園周辺を含めた用途地域を下記に示す。



※ 出典：北斗市都市計画情報閲覧サービス

4) ほか周辺環境

運動公園の周辺環境は、閑静に広がる一戸建て住宅地と農用地域に取り囲まれた環境にある。

周辺環境の主な施設について下記に示す。



※ 出典：北斗市都市計画情報閲覧サービス

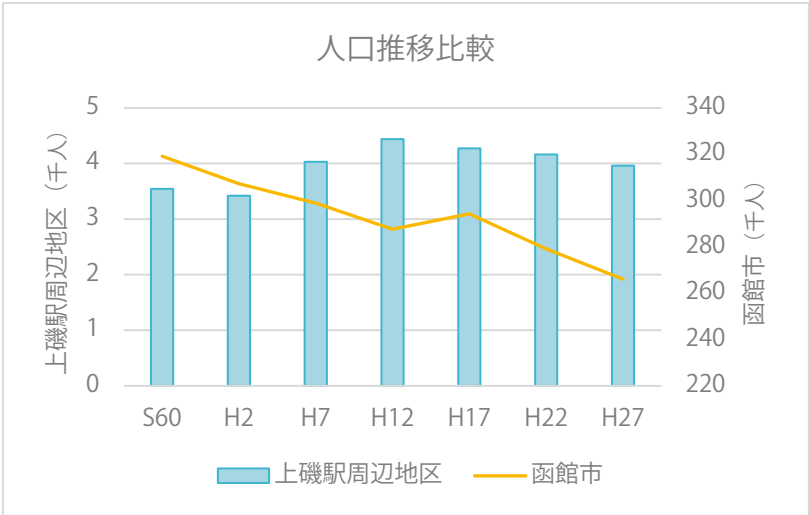
2-1-3. 人文的特性

1) 人口

道央圏での過疎化が著しい中、北斗市運動公園のある上磯駅周辺地区での人口推移は平成12年頃をピークに比較的穏やかに減少している。

上磯駅周辺地区と近隣都市である函館市の人口推移比較を下記に示す。

地区	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
上磯駅周辺地区	3,544	3,419	4,031	4,438	4,272	4,163	3,962
前年度比	—	96.47%	117.90%	110.10%	96.26%	97.45%	95.17%
函館市	319,194	307,249	298,881	287,637	294,264	279,127	266,117
前年度比	—	96.26%	97.28%	96.24%	102.30%	94.86%	95.34%



2-1-4. 自然的特性

津軽暖流の影響を受け海洋性の気候であり、北海道内にあっては比較的降雪量が少なく温暖で過ごしやすい地域になっている。

1) 市の木

◇ くろまつ（マツ科 常緑針葉樹）

北海道には、安政3年（1856年）頃、主に防風林として本州から移植されたもので、当市の沿岸部では最も生活に密着していた木である。また、樹齢130年を超える史跡松前藩戸切地陣屋跡のものや、大野農業高校の並木など、市民に親しまれている。



◇ ブナ（ブナ科 落葉広葉樹）

道南を北限とし、かつては広い範囲で自然林がみられた。近年は、保水能力が高く、水源涵養林として重要な役割を果たすことから、きじひき高原などで積極的に植樹を行っている。さらに、各種団体などの植樹事業の際にも、ブナを推奨していることから、市民に身近な木となっている。



2) 市の花

◇ 春：さくら（バラ科）

史跡松前藩戸切地陣屋跡や八郎沼公園など、さくらの名所が多く、北斗桜回廊、陣屋桜まつりなど関連した行事も行われ、市内各所で見られる身近な花となっている。



◇ 夏：マリーゴールド（キク科）

合併前から旧両町で、花いっぱい運動に利用していることから、最も市民に身近な花となっている。

栽培も比較的容易であり、一人ひとりの市民はもとより、町内会や、学校など、さまざまな場所で、花と触れ合うことができる。



◇ 秋：ムクゲ（アオイ科）

花木として、他に咲く花が極めて少ない秋に開花を迎える。

市内でも多くの家庭で植えられ、市民に親しまれている花となっている。

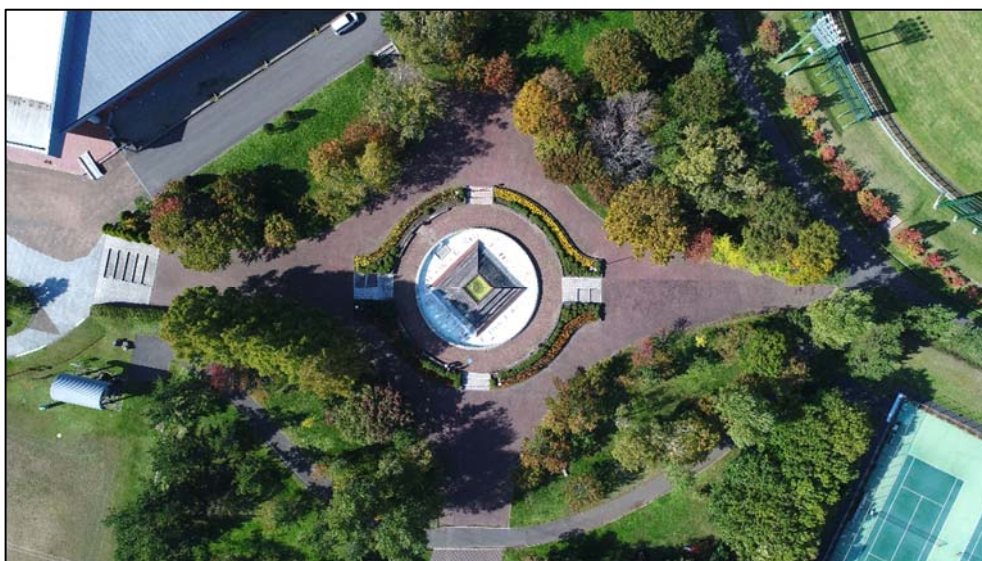


2-2. 敷地の現況

計画対象における現状の利用状況と現況写真を以下に示す。

1) 修景広場（噴水）

昭和 61 年に修景施設として整備された広場である。噴水についても修景用となっている。現在も稼働可能であるが、節水対策により休止しているため、公園利用者も通行するだけとなっている。



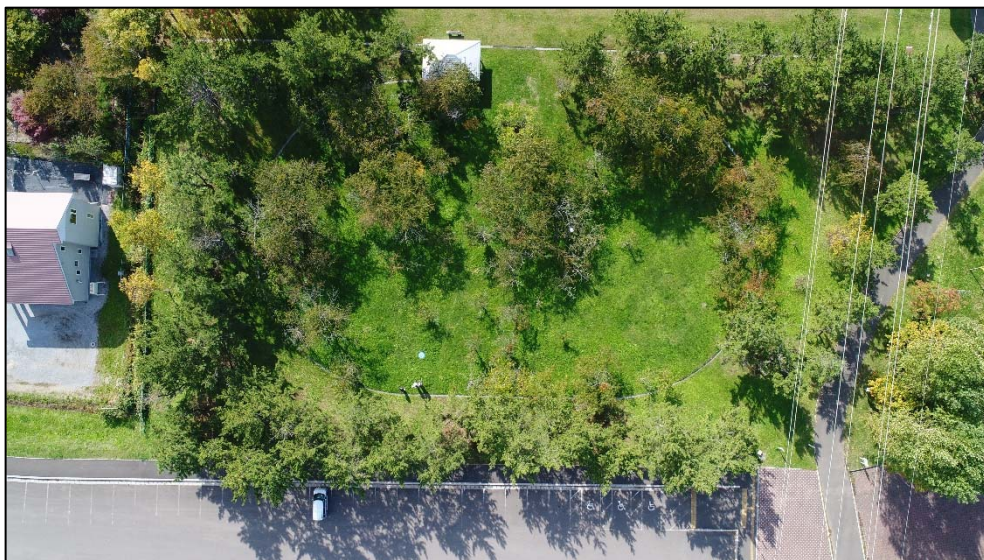
2) 自由広場

昭和 53 年に多目的広場として整備された。今まではサッカーなどのボール遊びなどでも利用されてきたが、フットボール場が新設されたことから今後の利用は少なくなると思われる。またゲートボールの利用もあったが、現在は利用されていない。



3) 花見広場

昭和 63 年に整備された。現状では水はけが悪いこともあり樹木の成長があまりよくない状況である。花見の時期でもあまり利用されていない状況である。



4) その他芝生広場

テニスコートと野球場に挟まれた公園敷地東側の広場は、当初パークゴルフ場として整備されたが、平成 11 年に敷地北側に新たにパークゴルフ場が完成したことから、利用者は少ない状況となっている。さらに東側に敷地を拡張し、一部は駐車場として利用されている。



次頁に現況平面図を示す。

北斗市運動公園 現況平面図

S=1/2,000

